

臨床検査専門研修プログラム

診療科の特色

臨床で使い易く、最大限利用できる臨床検査結果を提供するのが臨床検査の役割です。どんなに精度管理の行き届いた検査結果でも、臨床において十分に活用されなければ役に立ちません。臨床検査の役割は、必要な時に、迅速に、利用し易い検査結果を提供することが基本になります。これに加えて、日常検査において、その課題を認識し、検査法の改良および開発心がけ、実行することの重要な役割であり、信州大学臨床検査専門研修プログラムではその環境が整っています。

研修の場となる信州大学医学部附属病院の臨床検査部は、欧米のように臨床検査部門と病理診断部門が同じフロアで運営されています。国立大学病院では唯一であり、臨床検査部の最も大きな特徴となっています。Clinical Laboratory Medicine という観点から考えると、臨床検査部門と病理診断部門との関係を密に保つことにはメリットがあります。病理診断科と密接な関係を維持しつつ、遺伝子検査、細菌検査、フローサイトメリーなど自由に使える環境は、他の大学病院では手に入れることができません。

常勤臨床技師の半数以上が博士号を有していることも大きな特徴です。多くの検査技師が、それぞれの分野の専門家であり、質の高い検査結果、付加価値(コメント)をつけた結果を提供できます。非常に高いレベルの臨床検査専門医、病理専門医、臨床検査技師が協力しあって、日常検査をこなすだけでなく、臨床研究も盛んに行っています。その成果は、年間20-30篇の英文論文として発表しており、研究面においても国内有数の臨床検査部です。

また、臨床検査部において臨床検査を解釈しようという方針も当検査部の特徴です。血算および生化学検査(ルーチン検査)を読むReversed Clinicopathological Conference (RCPC)を年間30回以上行っています。また、外科病理部門が行うCPCとRCPCを組み合わせることにより、亡くなられた患者の病態をより詳しく検討しています。当臨床検査部でしか行えない RCPC + CPCとなっています。

日本で一番特徴のある大学病院臨床検査部であることは間違いないと思いますが、みんな生き生きとして仕事をし、研究をしています。

専門研修の魅力

信州大学臨床検査専門研修プログラムは、臨床検査医学総論、一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・輸血学、遺伝子関連検査学、臨床生理学の基本7科目を研修します。基幹施設の信州大学医学部附属病院に加え、連携施設でも研修を行うことが可能です。臨床検査各分野の知識、技術、精度管理を習得するに加え、下記の点が特徴です。

- 専攻医は、ルーチン検査(基本的検査)にて患者の病態を把握し、診断・治療に貢献します。
- 専攻医は、ルーチン検査の新しい活用方法を開発します。
- 専攻医は、細菌検査室の基本を習得し、感染制御チームに加わります。
- 専攻医は、遺伝子検査の基本を習得し、新しい遺伝子検査の開発に加わります。

臨床検査は、Evidence Based Medicineにおける客観的指標として診療に欠かせません。臨床検査全般において、質の向上と維持に努め、適切で信頼でき活用し易い結果の提供により、安全で良質な医療に貢献するのが臨床検査専門医です。臨床検査専門医の教育・指導は、指導医が懇切丁寧に行います。専攻医の皆さんは、最初に臨床検査の背景、方法論および臨床的意義を理解した後、私たちを含めた多くのメディカルスタッフと協力し、適正な医療の遂行に貢献します。また、実践する中で課題を認識し、新しい臨床検査の開発へ結びつけて行きます。

研修修了認定後には、専門医認定試験の受験資格が与えられ、合格すると臨床検査専門医になります。臨床検査専門医は、さらなる経験を積み上げ大規模中規模施設の臨床検査部門を管理・運営し、指導医として臨床検査専門医を育成します。また、教育研究機関では、臨床検査医学の教育・研究を担い、検査改良および検査開発が期待されます。

臨床検査研修カリキュラム

このプログラムは原則、初期研修修了後の3年間のストレート専門研修を想定していますが、事情により、例えば週2日の研修を5年などのオプションを用意することも可能ですので、詳細は相談してください。

臨床検査専門研修は、初期臨床研修終了後3年間の研修で構成されます。

- (1) 初期臨床研修中に選択必修あるいは自由選択により臨床検査を研修できますが、これを専門研修の一部に充てることはできません。
- (2) 3年間の専門研修では、すべての医師に求められる基本的診療能力・態度(コアコンピテンシー)とともに、日本臨床検査医学会が定める「臨床検査専門研修カリキュラム」に基づいて臨床検査専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、各基本科目修了後に達成度を評価します。評価方法は後の項目で示します。
- (3) 臨床検査の基本科目と研修期間は以下の通りです。原則として基本検査科目ごとに研修し、ローテーションします。順序は専攻医と指導医が話し合いにて決定します。

臨床検査医学総論: 2～4ヶ月

一般臨床検査学・臨床化学: 4～6ヶ月

臨床血液学: 4～7ヶ月

臨床微生物学: 4～7ヶ月

臨床免疫学・輸血学: 2～4ヶ月

遺伝子関連検査学: 1～2ヶ月

臨床生理学: 2～6ヶ月

- (4) 習熟目標としては、各基本科目終了時には指導医の点検を必要としないレベルの検査報告の作成を目指します。Reversed Clinicopathological Conference および研究などの学術活動は全期間を通して行います。
- (5) 各基本科目の施設内での研修は以下のように行います。
 - ① 病院臨床検査部門で臨床検査技師の助力により各種検査を実施(経験するレベル)、見学する。
 - ② 病院臨床検査部門で指導医指導により各種検査結果を判定し、報告書発行が業務となっている場合は報告書を作成する。
 - ③ 病院臨床検査部門で指導医指導により各種コンサルテーションに応じ記録を作成する。
 - ④ 指導医の講義により検査に関連する知識を得る。
 - ⑤ 病院臨床検査部門のReversed Clinicopathological Conference(RCPC)、Clinicopathological Conference(CPC)、および臨床検査部カンファレンスに参加して学習する。
 - ⑥ 各臨床科のカンファレンスに参加して学習する。
 - ⑦ 指導医と上級臨床検査技師の監督のもとに臨床検査技師学生の実習教育を実践し、臨床検査教育学を学ぶ。
 - ⑧ 臨床検査法提要(金原出版)、標準臨床検査医学(医学書院)、異常値の出るメカニズム(医学書院)、ワンランク上の検査値の読み方考え方(総合医学社)などの教材や施設内教材を用い、自己学習により学習する。
- (6) 施設外では3年間のうちに以下のことを研修します。
 - ① 日本臨床検査医学会または日本臨床検査専門医会が主催する講習会・セミナーで研修委員会が専攻医の学習用に認定したものに計10単位以上(原則1時間あたり、1単位)聴講・参加し、出席記録を残す。
 - ② 医療安全、感染対策、医療倫理については、上記学会または研修施設が主催する講習会を受講する。各1回以上講習を受け、出席記録を残す。
 - ③ 指導法、評価法は日本臨床検査医学会ならびに日本臨床検査専門医会、または所属施設が主催する指導者用講習会で研修する。